表1. 関連分野別意見と今後の予定

疾患や障害の特性に関する検討	自殺	分析予定
〈うつについて〉		
単極型うつと双極型うつにわけての国際比較も含めた分析		本報告書にて分析
自殺行動の頻度とうつとの関連	※	来年度以降分析
うつのnatural history(一生の生活)において、どの時点での治療にどれくらいの影響があるのか		来年度以降分析
〈社会不安障害について〉		
障害がある」という項目で「いいえ」と答え社会不安障害とならない者がどの程度いるのか		来年度以降分析
社会不安障害について、苦手な社会状況別の検討		来年度以降分析
〈身体症状について〉		
身体症状のパターンの国際比較		海外との交渉
身体症状別の頻度		来年度以降分析
身体症状と自殺行動との関連	※	来年度以降分析
啓発的/政策的活用について		
〈啓発・公表〉		
今回の大規模なデータを広く研究に活用する道を開いてほしい		研究班にて検討
有病率のデータなど国民はどう受け止めるのかを考慮しながら、一般の方にもわかりやすく公表してほしい。普及や啓発に活用できる資料を提供してほしい		来年度以降分析
〈今後の展望〉		
今後メンタルヘルスの中でどこに政策的重点をおくのがよいかを検討		研究班にて検討
疾患とその関連要因の検討		
〈全般的分析〉		
global burden of disease(疾病負荷)を算出		来年度以降分析
発症、予防、受診、自殺因子を検討	※	来年度以降分析
自殺行動と収入、地域、年齢、生活機能などの関連	※	他報告書にて分析(一部)
疾患、社会機能、受診別に検討		来年度以降分析
障害を有しながらも社会生活機能維持が可能な因子の検討		来年度以降分析
早期発見,早期受診が特に効果的な障害の検討		来年度以降分析
どれくらいの重症度機能のかたがそれぞれどれくらいいるのか、縮図のような指標の		来年度以降分析
〈年齢別の分析〉		
(高齢者のうつへの関心から)うつについて年齢階層別に比較し、危険因子やソーシャルサポートについて検討		本調査では困難
若年発症のうつのその後の再発リスクや再発防止への受療の影響の分析		来年度以降分析
〈地域別の分析〉		
自殺についての地域別の比較と、その要因の検討	※	来年度以降分析
〈障害ごとの分析〉		
身体疾患を有する方がどのような精神的な問題状態を有しているかの検討		来年度以降分析
身体症状を訴えて受診する人の本調査の有病率データと実数の比較		来年度以降分析

平成16年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）
こころの健康についての疫学調査に関する研究
研究班員名簿
（50音順）

主任研究者

竹島　　正（国立精神・神経センター精神保健研究所）

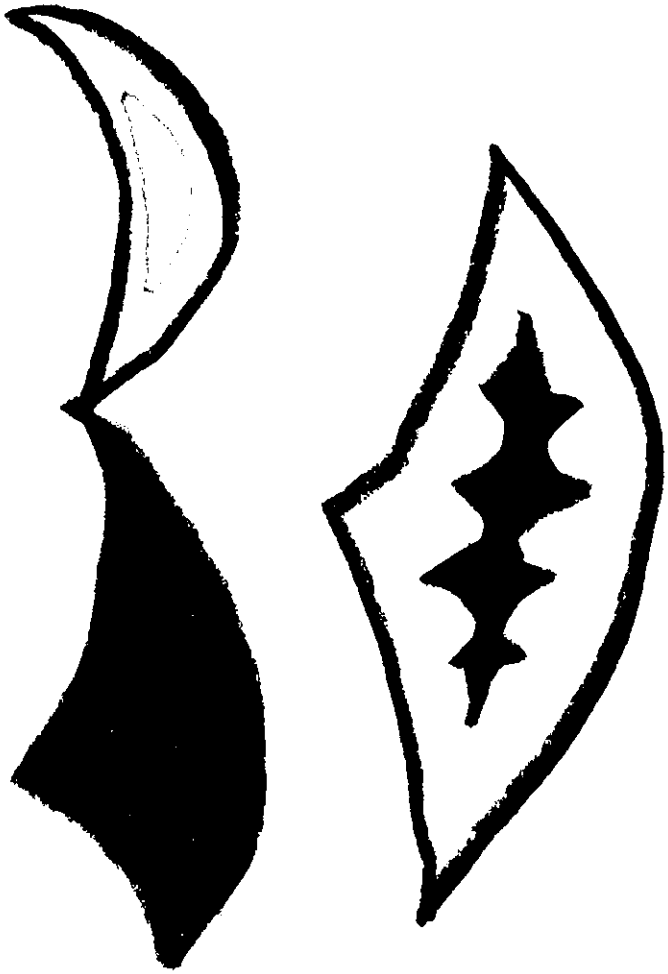
分担研究者

大野　　裕（慶應義塾大学医学部ストレス・マネジメント室）
川上　憲人（岡山大学大学院医歯学総合研究科）
立森　久照（国立精神・神経センター精神保健研究所）
中村　好一（自治医科大学公衆衛生学教室）
深尾　　彰（山形大学大学院医学系研究科・公衆衛生学・予防医学）

研究協力者

池原　毅和（東京アドヴォカシー法律事務所）
岩田　　昇（広島国際大学人間環境学部臨床心理学科）
宇田　英典（鹿児島県川薩保健所）
吉川　武彦（中部学院大学人間福祉学研究科）
中根　允文（長崎国際大学人間社会学部）
長沼　洋一（国立精神・神経センター精神保健研究所）
堀口　逸子（順天堂大学医学部公衆衛生学教室）
三宅　由子（国立精神・神経センター精神保健研究所）

平成 16 年度厚生労働科学研究費補助金（こころの健康科学研究事業）

「こころの健康についての疫学調査に関する研究」
研究報告書

発　行　日　平成 17 年 3 月
発　行　者　「こころの健康についての疫学調査に関する研究」
主任研究者　竹島　正
発　行　所　国立精神・神経センター精神保健研究所
〒272-0827　千葉県市川市国府台1-7-3
TEL : 047-372-0141　　Fax : 047-371-2900